

大学生のキャリア自律を目指す「Innovation Cafe」

—成城大学在學生による在學生への調査をもとに—

伊東 佳蓮¹ 村雲 真凜¹ 勝又 あずさ²

¹成城大学 社会イノベーション学部 ²成城大学 キャリアセンター

背景と目的

近年の社会情勢の急激な変化や、人生100年時代といった環境的要因を背景に、個人のキャリア自律の重要性が高まっている（リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所、2021）。このような環境下では、学生にもキャリアを自律的に歩む力が求められる。また、社会に出る最終地点に位置する大学は、主体的に学び行動する学生を育成しなければならない。

本研究の目的は、大学のキャリア支援の問題点を、学生当事者の目線から見つめ直し、解決へ導くための新たな施策を提案することである。

キャリア自律という考え方は、終身雇用や年功序列制度の崩壊とともに日本社会へと定着し、「自分の価値観をベースとしたキャリア開発の重要性を認識し、自分自身を継続的にモチベートし、自分の意志をベースに主体的に行動でき、チャンス能動的にとらえ、事態を切り開くことができる人材」（花田、2001）を目標としている。

一方で、日本におけるキャリア教育は『中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）』に記載のように、初等教育から就業体験を行い自らのキャリアを意識する機会を設けている。また成城大学では、「澤柳塾」（正課外プログラム）や、インターンシップ・プログラム（国内・海外）、資格取得支援等、学生のニーズに合ったキャリア支援に取り組んでいる。

方法

本研究では、成城大学の在學生を対象に大学のキャリア自律支援の現状について調査を行い、また学生のキャリア自律のための大学側の支援について要望を持つ在學生6名にはヒアリング調査を実施した。解決施策の立案にあたっては「SHIMOKITA COLLEGE」への現地調査とヒアリングを行い、実践面の課題について検討を行った。

結果

調査の結果から、学生は、周囲との日常のコミュニケーションにおいて「キャリアに対する自らの積極的な姿勢」を控えめに示す傾向にあった。またヒアリング調査では「就活時期に抱える自身の悩みを打ち明けづらい」、「将来に対する実践的な相談ができる知人が少ない」ことが明らかとなった。加えて「将来について学生同士で考える空間」や、「新しいことに挑戦

できる場（または、きっかけ）」、「学部の障壁をなくした学生同士の学び合いの場」を欲していることが推察された。

考察

この調査の結果から、成城大学の在學生の学内の課外活動は、主にサークル、部活動、サポーター活動に限定され、キャリア自律へ向けた自らの実践的活動を学外へ求めていることが推察された。また、「学内での学びや活動を自らの成長に活かす機会が限られている」という意見が複数みられたことから、学生がキャリア自律に必要な内省の機会（門田、2023）が十分に得られていないという課題も明らかになった。

結論

キャリア自律の条件である「キャリア自律の重要性を理解するプロセス」は、初等教育までのキャリア教育や、成城大学ではキャリアセンター主催のガイダンスやセミナーにより拡充されつつある。その一方で、学生が、自らのキャリアについて日常生活の中で内省し、具体的に行動に移す（トライ・アンド・エラーできる）場が、大学内に不足していると考えられる。これは「大学から一方的に与えられる」といった従来のキャリア支援のあり方を見直す必要があるともいえる。

我々は本調査を踏まえ、学生のキャリア自律を「学生相互による主体的な学びと成長の機会創出」と捉え、学生同士が高め合える場「Innovation Cafe」を立案する。

謝辞

アンケート査及びヒアリング調査に協力いただいた成城大学在學生、研究発表にあたり親身にアドバイスをくださった企業の皆様方、そして「SHIMOKITA COLLEGE」の河合道雄様に、心より御礼申し上げます。

参考文献

- 花田光世（2001）「キャリアコンピテンシーをベースとしたキャリア・デザイン論の展開」CRL Research Monograph No.1.
- 門田良明（2023）「「内省」援助者としてのキャリアアカウンセラーの役割—大学生のキャリア発達を促す内省促進的な関与」福岡大学教育開発支援機構紀要 1, pp.17-36
- 文部科学省（2023）『中学校・高等学校キャリア教育の手引き（2023年3月）』
- リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所（2021）「「キャリア自律」という考え方」